

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新消防本部棟建設工事	階数	地上5F
建設地	門真市殿島町	構造	S造
用途地域	準防火地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年5月23日
敷地面積	956㎡	作成者	(株)エネ・グリーン 坪田彩乃
建築面積	532㎡	確認日	2019年5月23日
延床面積	2,436㎡	確認者	(株)エネ・グリーン 定森淳一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 79% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 79% (46 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 79% (46 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.4

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	利用者が快適に利用できる用室内環境を考慮されており、サービス性能も一部取り組みがされている。省水型の衛生器具を設置し水資源の保護に努めている。またノンフロン品の断熱材を使用しオゾン層破壊防止に取り組んでいる。地域住民に配慮し十分な光害対策が行われている。	その他 無し
Q1 室内環境	集中リフトの設置により運用管理を行い、利用者に考慮した温熱環境になるよう、一部配慮されている。建物内は禁煙となっており、非喫煙者が煙に曝されないよう、対策をしている。十分な自然換気、建物内の禁煙対策を行	Q3 室外環境(敷地内) 無し
LR1 エネルギー	断熱材の施工により建物外皮の熱負荷が少ない。(BEI値=0.82)また設備システムの高効率化により省エネに貢献している。(BPI値=0.71)	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出率は80%となっており地球温暖化対策の取り組みが満足に行われている。地域住民に配慮し光害対策を行っている。
Q2 サービス性能	執務室面積の1%以上、リフレッシュを確保し、快適なオフィス生活が過ごせるよう設計されている。防汚性の高い建材の使用、水切りの設置、錆止め塗料の使用により維持管理に配慮した設計となっている。	
LR2 資源・マテリアル	省水型便器の採用、自動水栓の設置により水資源の保護に一部配慮がなされている。LGS下地、OAフロア、二重床により再利用可能性向上への取り組みを行っている。断熱材は全てノンフロン品を使用しておりオゾン層破壊防止に努めている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0115

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	新消防本部棟建設工事					
		建設地	門真市殿島町					
		用途/区分	事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.8	4	
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0		
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.8	5	
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.9	4	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項		利用者が快適に利用ができる用室内環境を考慮されており、サービス性能も一部取り組みがされている。省水型の衛生器具を設置し水資源の保護に努めている。またノンフロン品の断熱材を使用しオゾン層破壊防止に取り組んでいる。地域住民に配慮し十分な光害対策が						